

# 井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日  
 発行・平成26年2月1日・第14号通信  
 責任者・小林 孝夫 (井の口まちづくり会会長)  
 〒500-8018 岐阜市大仏町8 ☎058-264-2760  
 事務局長・名和 利夫 通信編集作成・馬場わかよ

## 井の口「まちの文化的建造物」顕彰制度を発足

### 井の口の魅力的な建造物の登録申請をお願いします

井の口まちづくり会 会長 小林 孝夫

井の口まちづくり会では、平成26年度から「井の口の建造物等顕彰制度」を発足します。これは、井の口の魅力的な建造物等をまちの宝物ととらえ、後世へつなげていくためのもので、まちの風景検討部会が担当します。

つきましては、次の要領で進めていくこととしますが、第一弾として、このまちに残る戦前の建造物から登録の受付をスタートします。ぜひとも、皆様のご理解と協力をよろしく願います。

#### ■目的

戦争や震災から残った歴史的建造物を大切に保存管理されてみえる方や、井の口の町並みに根差せる工夫をされて改築をされるなど、地域の魅力創出に努力されている方々がこのまちには数多くいらっしゃいます。

こうした方々のお心遣いと具現化が、私たちに井の口の誇りを感じさせていただけのものであることを実感し、今回、その感謝と建造物の顕彰の場を設け、井の口の魅力を一層高めていくことを目的とします。

#### ■制度の概要

自薦、他薦で魅力的な建造物を井の口まちづくり会へ登録申請していただき、登録された建造物等の中から年数件を選定いたします。

選定物件は「まちづくり会通信」「リーフレット」等で住民の皆様へ広報するとともに、選定表示板の掲示依頼を所有者または管理されている方へお願いするものです。

#### ■登録に当たっての注意事項

本年度は、戦前に築造された建造物等で適切に管理されており、井の口に根差していると思われるものとします。

来年度以降は、戦前の建造物等に加え新しく築造された建造物等も対象にします。新しい建造物であっても井の口の風景をより魅力的にしていると思われるものです。

※本年度の自薦・他薦の締め切りは3月末とします。なお、第1回の顕彰は次年度の総会(今年4月末を予定)に行いたいと思っております。

### 国の重要文化的景観地区選定の答申

昨年11月15日に文化庁の文化審議会が「長良川地区・金華山地区」を国の重要文化的景観と選定するよう文部科学大臣へ答申しました。当該地区には金華地区が含まれ、私たちの生活空間が文化を育んだ魅力的な風景であることを国に認められました。東海地方では初のことです。

文化的景観とは、「自然や風土の中で、人々の日常生活・文化が継続的に営まれてきたことにより、かたち作られた身近な景観」のことで、その中でも特に重要な地域として選定されることになったのです。

今年度の総会で、京都工芸繊維大学の清水重敦先生から文化的景観に関するご講演をいただきましたが、まさに風景は生活(生業)を表現することというお話のとおりで、金華山や長良川の自然と、長い歴史の中で培われてきた井の口のこの風景を、これからも大切にしていきたいと思っております。

まちの風景検討部会 部会長 木野村 英機



## 「井の口寄席」開催のお知らせ

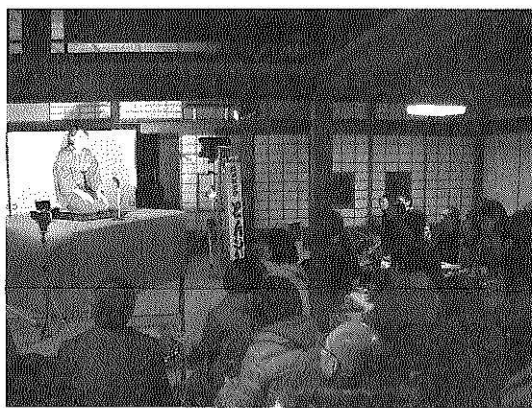
2月23日(日)開演6時(開場5時30分)

会場：妙照寺本堂 きど銭：300円(豚汁付き)

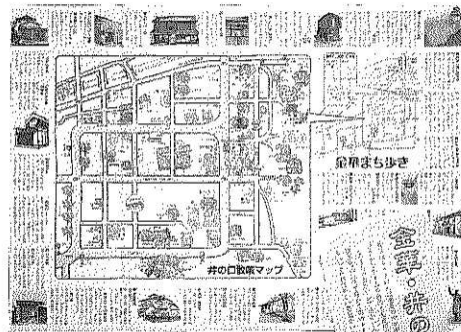
岐阜市が主催する「第11回全国日本学生落語選手権 策伝大賞」に出演する全国の学生らによる井の口の落語会です。今回は昨年度の大改修を終えた「妙照寺本堂」にて行います。

木の香りが新しい芭蕉ゆかりのお寺で、学生たちの力いっぱい高い高座をお楽しみください。なお、小さいお子さんの同伴はご遠慮ください。中入りには温かい豚汁の振る舞いがあります。

きど銭は全額、学生落語支援団体に寄贈しています。(高橋)



正法寺での昨年の井の口寄席の様子



### 井の口マップ活用をお願いします

井の口まちづくり会は、戦国武将斎藤藤道三と織田信長が築いた、今も歴史と文化が感じられるまちを活動区域にしています。

こうした町並みの散策に役立ててもらおうと、井の口まちづくり会が活動を始めた21年に作成し、24年に改訂したマップを、このまちを訪れる多くの方たちの手にお渡ししていただけの商店、企業、個人に無料配布しています。

入手を希望される方は、事務局名和利夫(電話058126310097)へご連絡ください。



平成25年12月23日、梶川貯留槽建設見学会

記念にコンクリート壁に文字を書く見学者



**まちなかお宝アート発見 梶川貯留槽建設中**

まちなか新たなお宝が誕生します。そのお宝は、コメダ珈琲前に高く囲いで覆われた作業場に建設中です。

現在、金華山の西側斜面に降った雨の多くが、井の口のまちの中に流れ込んでいます。少しぐらいの雨なら問題はないのですが、記録的な大雨のときには、水が行き場がなくなり、この一帯は浸水していました。

ここで建設されている梶川貯留槽は、妙照寺前の通りの地下11mを西方向に、シールドマシンという直径4mの大きな機械でモグラのように掘り進んで、マシンのジャッキを延ばして12mずつ前へ進み、コンクリート壁ブロックエレクターにてトンネルを組み上げていきます。

作業は8時間の2交替で行われ、日進7mほどですが、大きな岩盤に当たれば作業が難航します。今年度中の完成を予定して、24時間体制で作業が進められています。

完成すれば、全長500mの大トンネル槽となり、貯留量は6千200m<sup>3</sup>(小学校の25mプール約20杯分)。大雨が降っても、皆さんの大事な命と財産を守ってくれる、目に見ることはできない宝物になります。(馬場)



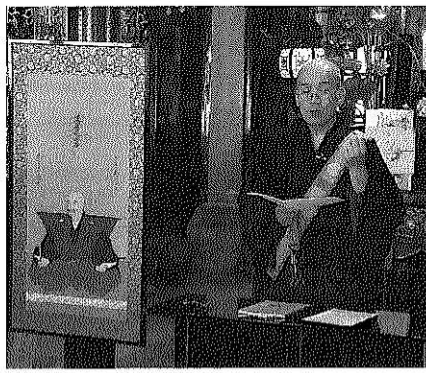
# 平成25年度・井の口まちづくり会・各部会活動報告

## 妙照寺落慶協賛事業

妙照寺の落慶に協賛して井の口まちづくり会では、岐阜市歴史博物館学芸員の望月良親氏に「芭蕉が見た岐阜」と題した記念講演会を5月11日(土)、大改修を終えた妙照寺本堂にて開催いたしました。

当日は天気にも恵まれ、芭蕉の間の公開もされて大勢の参加者でにぎわい、妙照寺の落慶に花を添えることができました。

## まちの歴史探索部会 「道三と常在寺」



常在寺北川住職による講話の様子

部会長 中村 末雄  
岐阜のまち造りの先駆者ともいえる斎藤道三の実像に迫りたいの思いで、6月29日(土)、道

三ゆかりの常在寺で北川住職による講話会を開催しました。

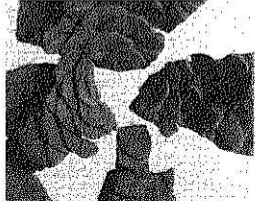
常在寺の古くからのいわれをはじめ、斎藤家とのつながり、その他北川住職の調査結果を充分に伺うことができました。

特に、道三の遺言状は大変興味深いものであり、定員よりも多い人数が詰めかけて、熱心に耳を傾けていただきました。

## 「信長居館跡」発掘物語

11月30日(土)、25年度発掘現場を中心に視察と解説が市教育委員会の井川女史により行われました。池をはじめ金箔飾り瓦の出現、さらには随所に見られる庭造りについて詳細に解説がなされ、およそ60名の参加者が1時間30分にわたり熱心に聞き入りました。

参加者からは説明が解りやすいと好評で、来年もぜひ開催してほしいと言われましたが、地元の方が少数であった点が残念でした。



金箔飾り瓦と牡丹文

## まちなかアート部会 まちなか七夕アート

部会長 伊藤 逸夫  
3回目となる七夕アートを7月6日(土)・7日(日)に開催。今回はコンサート会場を般若寺さんのご協力で移し、山門前に2本の大笹で七夕飾りをしました。

50軒ほどの軒先にゆれる七夕飾りの町並みに酔い、夕暮れのコンサート会場には70名ほどの参加を得て、ソプラノ歌手鷺見孝子さんの歌声が後藤亜衣さんの伴奏に乗って金華山に届きそうな声量で響き、感動と至福のひとつときを過ごしました。



般若寺での七夕コンサート

関先にススキを飾っていただき開催しました。

初日14日(祝)は、岐阜女子大学書道部の学生たちによる「月」にちなんだ揮毫パフォーマンスがあり、迫力ある筆さばきに、詰めかけた大勢の見物者から大きな拍手が上がりました。

19日(土)夜には、大仏殿、般若寺、ふくろうの家を廻るスタンプラリーを開催。ゴールに到着の97名に手づくりせんざいを振る舞いました。同夜は夕方からの曇り空、その隙間から3分ほどの短い間、お月様が顔を出してくれました。

## まちなかお月見アート

今年も10月の十三夜を挟んだ7日間、地区内の60軒ほどの玄

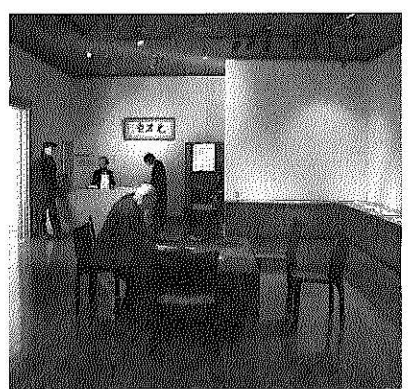


岐阜女子大学書道部による大仏殿での揮毫風景 作品「夜月天」は1週間大仏殿東側に展示された

ふくろう絵工房で せんざいの振る舞い



## 大仏様への年賀状展



光芳堂にて年賀状展

初秋から広く呼びかけ、12月始めには大仏殿に投函箱を設置して郵送を含め大仏様への年賀状を募り、年が明けた1月10日(金)12日(日)の3日間に、画廊光芳堂にて年賀状展を開催しました。今年も明照幼稚園の可愛い作品に加え、岐阜小学校の生徒作品もあり、例年より多い300点ほどになりました。

岐阜、中日、朝日新聞に掲載され、新聞で見たという来場者も多くあり、次回には年賀状をお願いしたいです。また、今年から年賀状をいただいた来場者には、大仏殿への無料拝観券を差し上げ大仏様へご挨拶をしていただける試みをしました。幼稚園児の家族が喜んで拝観に行かれるなど好評でした。

## 事務局だより

事務局 名和 利夫  
井の口まちづくり会は、結成からまもなく6年になります。井の口まちづくり会の活動区域は、400年前の戦国時代に斎藤道三、織田信長が築いた城下町と重なり、その当時の町割りや、現代に引き継がれています。

まちは、今もなお歴史や文化を肌で感じられます。このことは、井の口あたりの江戸、明治、昭和、平成の地図を見比べるとよりはっきりします。井の口の町割りに大きな変化はなく、400年前の町割りを知ることができ、現実のまちに接することで感動します。

こうした環境の中で、私たちは暮らしています。このような歴史と文化が身近に存在するまちは多くはありません。こうした歴史や文化を多くの人たちに知ってもらうことが、まちの活性化に貢献するはずですが、今後のまちの歴史や文化に関する文字、絵画、地図、写真等のあらゆる情報に容易にアクセスできることで、会員が増え、井の口のまちづくりが進むと考えます。

今年度より事務局長を任せられました。皆様のお知恵とパワーをお貸しください。よろしくお願ひします。

## イベント部会 大仏フェスティバル

部会長 高橋かずえ  
正法寺のかご大仏として親しまれている岐阜大仏、日本三大仏の一つです。7月に境内に地元の人達が集まって開催する大仏フェスティバル、井の口まちづくり会も子どものゲームを中心に協力しています。岐阜小学校も旧京町小学校と金華小学校と一緒に、参加する子が



風船を使ったゲーム

増えました。子ども時代の楽しい思い出になってくれるといいですね。「あんどん祭り」も力作で多くの方が訪れました。

## 御鯰街道ウォーク

江戸時代に長良川の鮎を加工して作ったなれずしを幕府に献上したルートを歩く第5回「御鯰街道ウォーク」が9月に行われ、約千人が参加しました。宰領と鮎鮎荷を担ぐ運び役を先頭に、大宮町の岐阜公園を出発、笠松湊までの約9kmを練り歩きました。

すしを作った益屋町の「御鯰所」跡では、当時の様子を伝えるチラシを井の口まちづくり会員で配布



宰領と鮎鮎荷を担ぐ先頭の皆さん

しました。お天気に恵まれ、ウォーク日よりとなりました。

## 井の口「まちの文化的建造物」顕彰制度 あなたの推薦は何処？

1面に掲載しました「井の口建造物等顕彰制度」の発足に当たり、初年度は、戦前に築造された建築物等の登録を受付ます。自薦、他薦を問わず、このまちの魅力的な建造物を井の口まちづくり会に推薦いただき、総てを登録させていただきます。その中から「まちの文化的建造物」への選定をしていきます。締め切りは3月末日。小林会長、名和事務局長までお届けください。

推薦建造物等名(所有者名・町名等)

お薦めの理由

推薦者氏名( ) 匿名可

推薦者氏名( ) 匿名可